

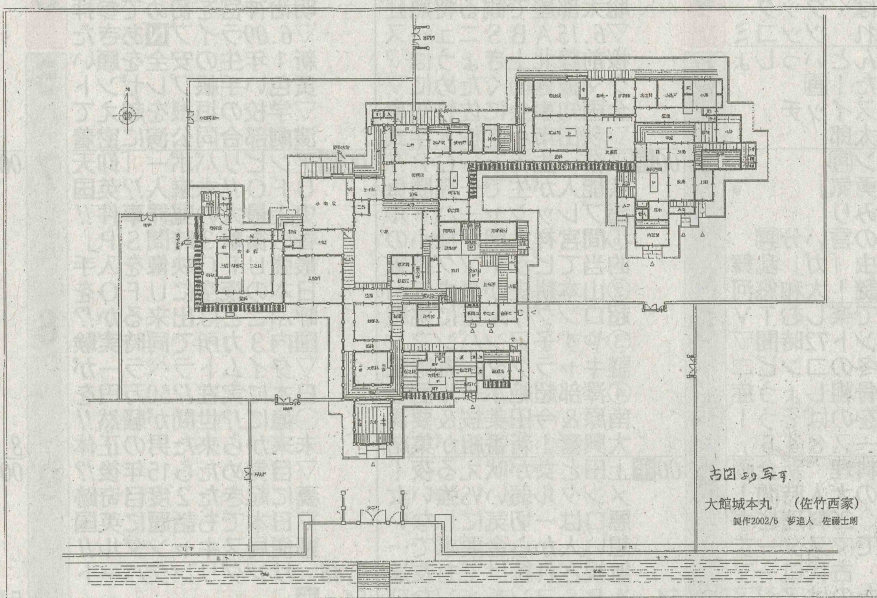
平面図から3D化した大館城。さまざまな角度から見る事ができる (小笠原教授提供)



# 大館城外観 CGで再現

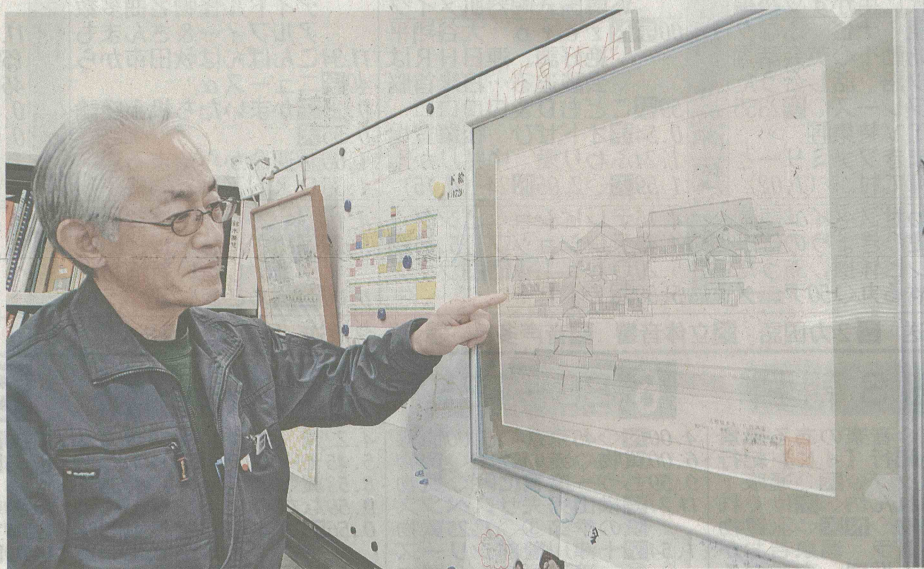
## 戊辰戦争時に全焼、落城

戊辰戦争(1868〜69年)で焼失した「大館城」の外観が、コンピュータグラフィックス(CG)で立体的に再現された。秋田職業能力開発短期大学の教員と学生が2023年度総合制作実習として作成。24年度は一般公開を目指し、桂城公園(大館市宇中城)となっている城跡にスマートフォンやタブレット端末をかざすと城が見られるように研究を進める。



故佐藤さんが古図から作成したとされる大館城の間取り図

## 秋田短大 AR活用、一般公開目指す



故佐藤さんが作成した大館城の姿図と小笠原教授が秋田職業短大

大館城は16世紀中頃、浅利勝頼が築いたとされる。浅利氏の滅亡後は秋田氏、江戸時代には佐竹氏一門の佐竹西家が城代として治めた。戊辰戦争

時の1868年に全焼、落城し、建物に関する記録は十分に残っていない。

昨年の市歴史的風致維持向上協議会で、桂城公園の景観整備の一環として、デジタル技術を用いて大館城を再現できないかという話が持ち上がった。

た。そこで協議会副会長を務める小笠原吉張・秋田職業短大特任教授(61)が、学生の卒業研究(総合制作実習)に選び、学生2人を指導しながら作成した。作成には、市内で設計事務所を営んでいた故佐藤士郎さんが古図から写したとされる間取り図や姿図を使用。縮尺や寸法の記載がなかったため、上級武士の屋敷から推定して平面図を作り、3D化した。

小笠原教授によると、複雑な構造の屋根を再現するのが難しかった。切り妻屋根、入り母屋屋根、棟違い屋根など複数の屋根が入り組んでおり、部分的に想像力を働かせたという。新たな資料があれば修正を加えるほか、建物内部の再現などにも取り組む。

「もう1年かけ、桂城公園の城跡で大館城を見られるようにしたい」と小笠原教授。今後、拡張現実(AR)技術を使い、できるだけ費用をかけずに多くの人が利用できる方法を探る。(田中敏雄)